

グローバル自動運転 関連株式ファンド (為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／株式

日経新聞掲載名：G自動運転無

2022年4月12日から2023年4月10日まで

第6期 決算日：2023年4月10日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、自動運転技術の進化・普及により、業績拡大が期待される日本を含む世界の企業の株式に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	18,053円
純資産総額(期末)	67,267百万円
騰落率(当期)	+1.8%
分配金合計(当期)	50円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

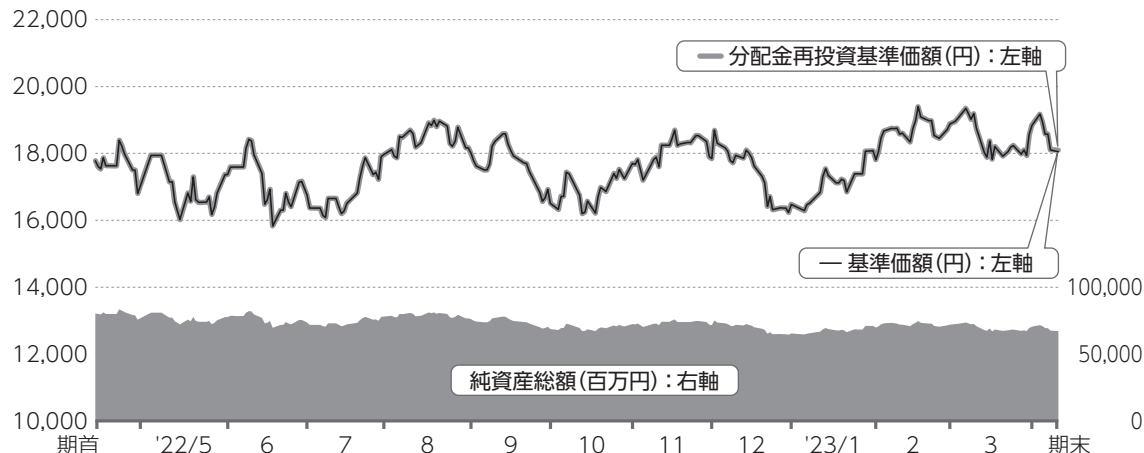
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について（2022年4月12日から2023年4月10日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	17,778円
期末	18,053円 (既払分配金50円(税引前))
騰落率	+1.8% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2022年4月12日から2023年4月10日まで)

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として自動運転技術の進化・普及により業績拡大が期待される日本を含む世界の企業の株式などに投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

上昇要因

- 保有する半導体関連銘柄やソフトウェア関連銘柄が大きく上昇したこと
- 米ドルが対円で上昇したこと

下落要因

- 米国での利上げ継続観測を背景に、グローバル株式市場が軟調に推移したこと
- 保有する資本財・サービス関連銘柄や素材関連銘柄が軟調に推移したこと

1万口当たりの費用明細（2022年4月12日から2023年4月10日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	219円	1.240%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は17,645円です。
（投信会社）	(68)	(0.384)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(145)	(0.823)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(6)	(0.033)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（株式）	(－)	(－)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（公社債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) その他費用	1	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(－)	(－)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.007)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(0)	(0.001)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	220	1.247	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

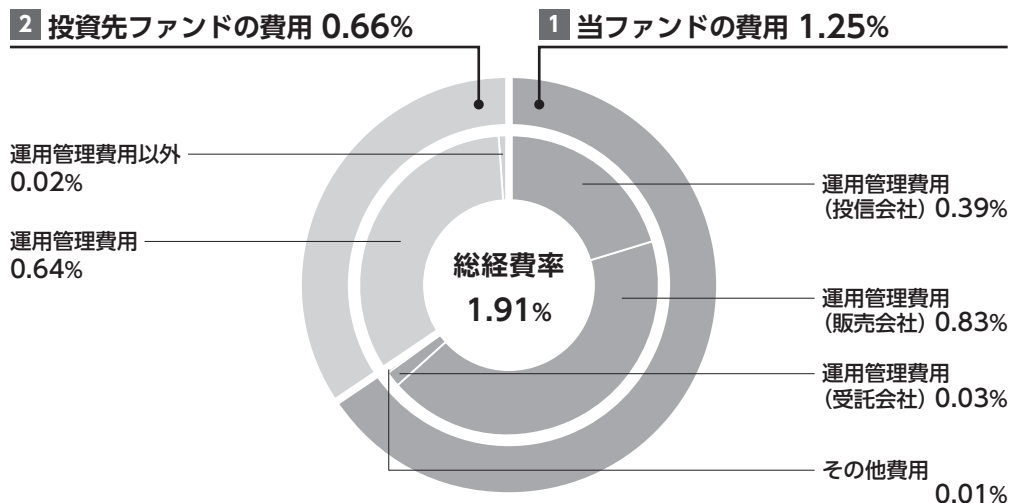
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)		1.91%
1	当ファンドの費用の比率	1.25%
2	投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64%
	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

※ 1の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ 2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

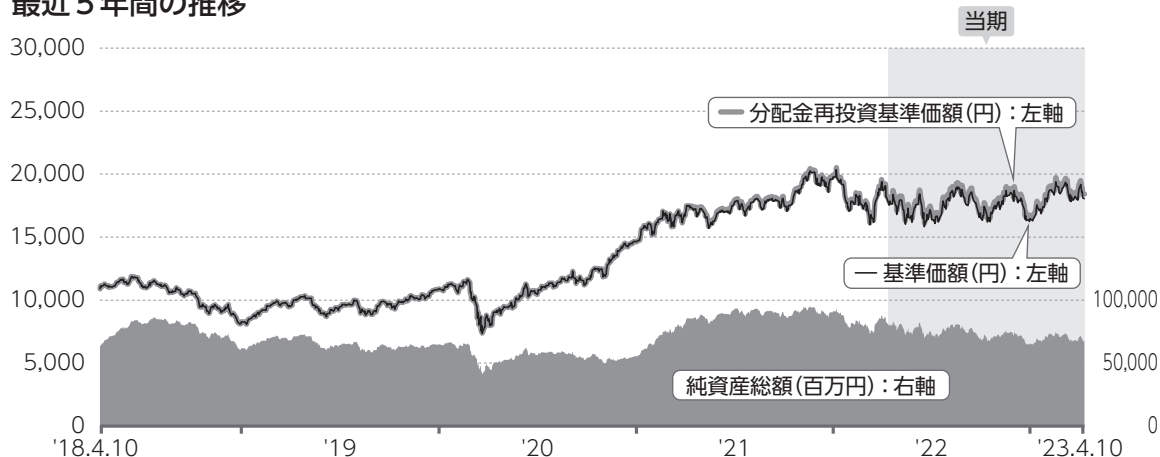
※ 1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※ 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.91%です。

最近5年間の基準価額等の推移について（2018年4月10日から2023年4月10日まで）

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年4月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2018.4.10 決算日	2019.4.10 決算日	2020.4.10 決算日	2021.4.12 決算日	2022.4.11 決算日	2023.4.10 決算日
基準価額 (円)	10,898	10,007	9,040	17,321	17,778	18,053
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	0	150	150	50
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-8.2	-9.7	93.3	3.5	1.8
純資産総額 (百万円)	62,450	71,073	50,313	85,223	80,472	67,267

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について（2022年4月12日から2023年4月10日まで）

グローバル株式市場は下落しました。また、当期の為替市場は米ドルが対円で上昇しました。

株式市場

グローバル株式市場は下落しました。インフレ（物価の上昇）抑制に向けて欧米の中央銀行が急速に利上げを進めたことで、世界経済の減速懸念が強まりました。また、米国の中堅銀行が経営破綻し、欧州の大手金融機関が救済合併に追い込まれるといった事態が相次ぎ、金融システム不安が強まったことも重石となりました。

一方で、欧米の物価指数の伸び率が鈍化し、インフレのピークアウトが近いとの期待感が強まったことや、中国でゼロコロナ政策の転換により、経済再開への期待感が高まったこ

となどが下支え要因となりました。

為替市場

期初と比較して期末の円相場は、米ドルに対して円安となりました。米国の金利上昇を受け、日米の金利差が拡大するとの見方が強まったことなどを背景に、対米ドルで円安となりました。

一方で、日本銀行がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の運用を見直したことで円を買い戻す動きが進み、円高が進む局面がありました。

ポートフォリオについて（2022年4月12日から2023年4月10日まで）

当ファンド

期を通じて、「オートノマス・ビークル・ファンド（JPYアンヘッジドクラス）」を高位に組み入れました。

オートノマス・ビークル・ファンド （JPYアンヘッジドクラス）

●株式組入比率

株式組入比率を高位に維持しました。

●国別配分

米国の組入比率を高位に維持しました。

●業種配分

車の電装化を支える半導体や電子部品関連銘柄を中心に、情報技術セクターの組入比率を高位に維持しました。一方で、景気減速の影響を受けやすい素材セクターや資本財・サービスセクターの組入比率を引き下げました。

●個別銘柄

半導体設計ソフトウェアを提供するケイデンス・デザイン・システムズ(情報技術)の組入比率を引き上げました。車載半導体の高度化を支える黒子役としての成長余地に注目しました。一方で、非鉄金属を生産するファースト・クオンタム・ミネラルズ(素材)の組入比率を引き下げました。自動車の電装化が進

むことで需要増加が期待される非鉄金属ですが、短期的に世界経済の減速が必要面で重石になると判断しました。

●ポートフォリオの特性

引き続き、自動運転技術の普及によって業績面で恩恵を受ける自動運転関連企業に注目し、株価バリュエーション(投資価値評価)にも留意した運用を実施しました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2022年4月12日から2023年4月10日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2022年4月12日から2023年4月10日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第6期
当期分配金	50
(対基準価額比率)	(0.28%)
当期の収益	50
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	8,052

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き「オートノマス・ビークル・ファンド（JPYアンヘッジドクラス）」を高位に組み入れて運用を行います。

オートノマス・ビークル・ファンド （JPYアンヘッジドクラス）

欧米の金融当局が迅速な対応を実施したことで金融システム不安は後退しつつあり、小康状態にあるといえます。一方で、銀行与信の厳格化や金融規制の強化が景気の下押し圧力となり、先行き金融政策は軟化を余儀なくされると見えています。昨年来、急激な金利上昇が重石となってきた株式市場にとって、金利の低下期待が強まることはプラス材料であると考えます。また、スタートアップ企業やベンチャー企業の資金調達環境が悪化するこ

とで、既に業界内でポジションを確立した優良企業にとっては競争緩和といった恩恵をもたらす可能性があります。

世界経済が減速局面を迎える中、当面は構造的な需要増加に裏打ちされた業績成長が期待できる企業への注目が高まると見えています。人々の生活に欠かせない交通システムの効率化や安全性の向上に資する自動運転やEV（電気自動車）の普及は息の長い投資テーマであり、関連企業の成長ポテンシャル（潜在能力）は大きいと考えています。徹底したボトムアップ・リサーチを通じて、競争優位性のある企業を発掘し、投資する方針です。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

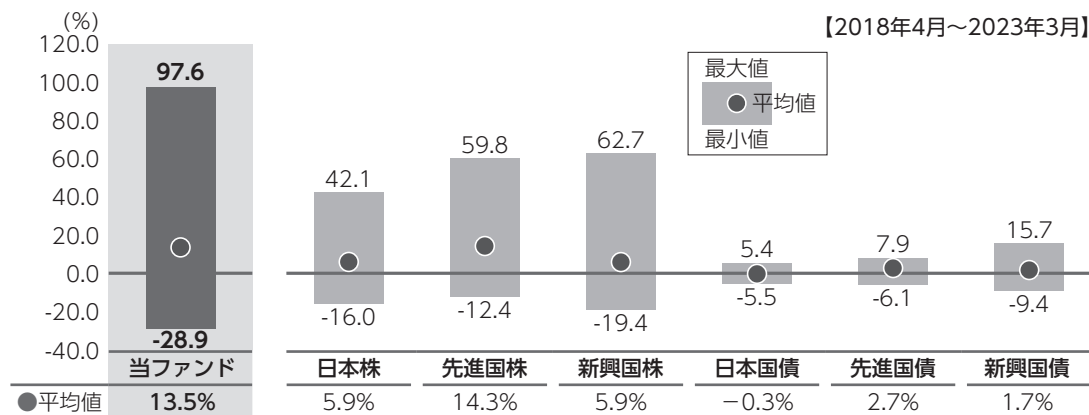
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2017年4月28日から2024年4月10日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、自動運転技術の進化・普及により、業績拡大が期待される日本を含む世界の企業の株式に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 オートノマス・ビークル・ファンド(JPYアンヘッジドクラス) 世界の取引所に上場している株式 マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■自動運転技術の進化・普及により、業績拡大が期待される世界の企業の株式に投資します。 ■実質的な運用は、リサーチ力に強みのあるニューパーガー・パーマン・グループが行います。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として4月10日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

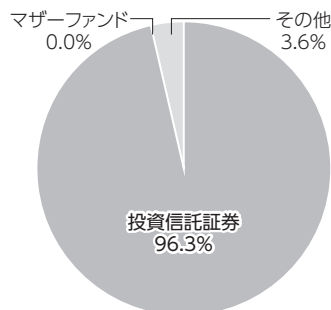
当ファンドの組入資産の内容（2023年4月10日）

組入れファンド等

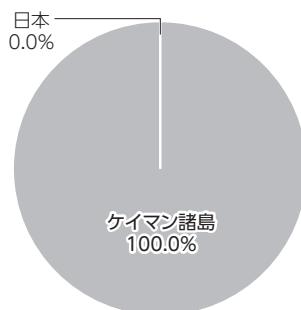
銘柄名	組入比率
オートノマス・ビーグル・ファンド(JPYアンヘッジドクラス)	96.3%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%
コールローン等、その他	3.6%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

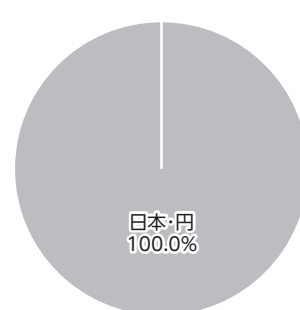
資産別配分（純資産総額比）



国別配分（ポートフォリオ比）



通貨別配分（純資産総額比）



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第6期末 2023年4月10日
純資産総額 (円)	67,267,354,283
受益権総口数 (口)	37,261,505,754
1万口当たり基準価額 (円)	18,053

※当期における、追加設定元本額は3,741,312,625円、解約元本額は11,746,162,638円です。

組入上位ファンドの概要

オートノマス・ビークル・ファンド(JPYアンヘッジドクラス)
(2021年7月1日～2022年6月30日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「オートノマス・ビークル・ファンド」の情報で、ニューバーガー・バーマン・グループから提供されたデータに基づき作成しています。

基準価額(円建て)の推移



※分配金再投資ベース

組入上位銘柄

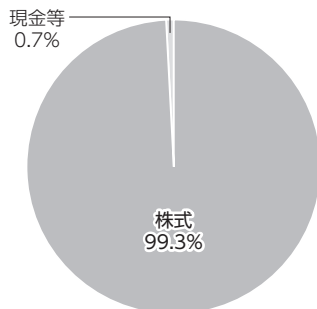
(基準日：2022年6月30日)

	銘柄名	業種	組入比率
1	アナログ・デバイセズ	半導体・半導体製造装置	4.3%
2	トリンプル	テクノロジー・ハードウェア・機器	3.6%
3	アンフェノール	テクノロジー・ハードウェア・機器	3.3%
4	アンシス	ソフトウェア・サービス	3.2%
5	モノリシック・パワー・システムズ	半導体・半導体製造装置	2.9%
6	ディア	資本財	2.8%
7	ジェンテックス	自動車・自動車部品	2.8%
8	ツー・シックス	テクノロジー・ハードウェア・機器	2.8%
9	キャタピラー	資本財	2.8%
10	MPマテリアルズ	素材	2.8%
	全銘柄数	61銘柄	

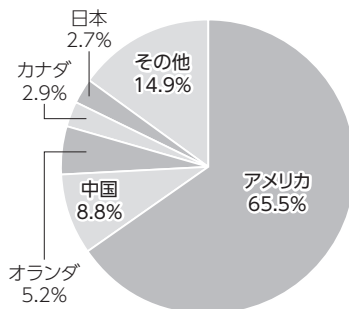
※比率は純資産総額に対する割合

※全銘柄の情報については、運用報告書(全体版)に記載しています。

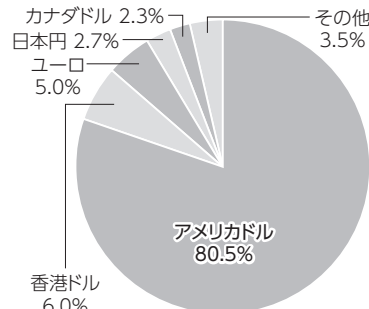
資産別配分（純資産総額比）



国別配分（純資産総額比）



通貨別配分（純資産総額比）



※国別配分は原則発行国もしくは投資国を表示しています。

※基準日は2022年6月30日です。

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。